

神戸市立鹿の子台小学校 学校評価報告書

校 園 長 名 角 素 子

記 入 者 名 林 浩 司

神戸の教育が目指す人間像		教育ビジョン		神戸が目指す これからの学校の姿		
心豊かに たくましく生きる人間		自他を大切に 自ら考え 未来をつくる		人がつながり ともに創る みんなの学校		
リ 学 校 目 標 づ 標 ぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの、安全で安心できる生活を、職員全員で実現させる学校 ・学校生活全体を通して、子供たちが将来たくましく生き抜くために必要な資質・能力を、計画的に育成していく学校 ・地域に愛され、地域とともに、将来地域を支える人材を育ていく学校 					
内容	重点的な取組	評価 4段階	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案	
(教育目標)かがやきと 笑顔あふれる 鹿の子台						
育 っ たい 子 供 の 姿)	自分で考えて行動する子	かのご学習(家庭学習)の推進 職員研修の充実(言葉の力の育成)	3	今年度は、全学年でかのご学習を日々の家庭学習に積極的に取り入れた。自分の課題を克服する内容や興味関心を広げる内容など、取り組む課題を工夫するよう指導を継続した。児童の取り組んだ好事例を廊下掲示し紹介し、目指す姿として児童にも共有できるようにした。 過去2年間で書く力の育成をしてきたことを受け、今年度は読む力の育成に重点を置き、職員研修を進めた。教科書教材だけでなく様々な関連図書に触れ、主体的に読書を進める姿や、粘り強く言語活動に取り組む姿が各学年で見られた。	・授業では、一人一人が興味関心を示し、課題を克服するような指導をしていると感じた。教科書教材だけでなく、関連図書に触れ、読む力の育成に取り組むことを継続していただきたい。 ・読書率低下については、世の中の傾向と家庭環境での会話の減少が関係していると思う。子供たちが興味を示す仕組みが必要だ。 ・パソコンを使った学習は順調に進んでいると感じた。ついていけない子へのフォローはどうなっているのかと少し気になった。 ・各学年の廊下の掲示板に好事例を掲示することが継続実施されており、子供たちの学習意欲向上につながっている。	・かのご学習の取組を始めて3年が経過し、子供たちの中にも自分学習のスタイルができてきた。今後は、より学年に合った学習内容や量、進め方等を年度当初にわかりやすく例示し、児童にとって方向性が明確になるようにする。また、意欲が継続するよう、教師からのフィードバックの仕方も工夫していきたい。 ・好事例を紹介したり廊下に掲示したりすることを継続し、互いに認め合う姿勢を育てる一方で、児童が次の取組へのヒントを得られるようになっていきたい。 ・読書量の確保については、読書の時間を確保するだけでなく、授業の中で様々な図書に触れる必然性を組み込む工夫をしていく。
	のびのびと明るい子	挨拶の推進 地域や外部人材と連携した 学習活動の展開	3	年間を通してプログラム委員会と教職員が中心となって朝の挨拶運動に取り組んだ。生活指導から全校朝会などでも挨拶の大切さについて伝えた。 各学年で道徳を教科担任にするなどして、学年の教員全員で子供たちの心の教育に取り組んだ。 外部人材を活用した出前授業(芸芸賞、警察官等)や、鹿の子台の地域の人材(防災コミュニティ、高齢者サークル等)や近隣企業と連携を図り、大人や立場の違う方々と接する機会を設けている。	・朝の挨拶を大きい声で元気してくれる子供が増えつつある。帰宅後の時間にも子供たちから「こんにちは。」と声をかけられることがあり、挨拶の推進の成果が活かされている。 ・外部人材や地域と連携した学習活動も活発にされており、特に地域企業エスベックとの環境学習の取組は素晴らしいと思う。今後もこれまで以上に連携を深めていただきたい。	・「自分たちの働きかけで学校に挨拶を増やしていきたい」と児童が主体的に取り組めるよう、プログラム委員会による挨拶運動は来年度も継続する。取組が形骸化しないよう、取り組み方を工夫する。 ・地域企業エスベックとの連携授業は、この2年間の取り組み内容を一旦整理し、年間の学習計画に明確に位置づけ作業を進めているところである。さらに内容を充実させていきたい。 ・地域と連携した防災活動は、今後も継続実施していく。
	こつこつとがんばる子	なわとび体操の実施 マッスル教室(放課後学習)の実施	3	毎年恒例の冬の時期の体力づくりの一環としてなわとび体操を取り入れている。検定システムなどで子供たちはさらに上級を目指し、自主的になわとびに取り組んでいる。 今年度も毎週月曜日の6校時に低学年を中心に放課後学習を行った。線り上がり下りの加除や九九など、算数の基礎学力の定着を図っている。	・休み時間に運動場で元気に縄跳びをしており、放課後も地域の公園等で縄跳びをしている子供たちをよく見かける。 ・縄跳びは鹿の子台の伝統だ。今後も楽しく上達できるように取り組んで欲しい。 ・月曜日の放課後学習が定着するよう、地域への(放課後学習支援に対する)呼びかけをこれからもしていく。	・今年度から、朝の学習タイムを使った縄跳び体操の実施はやめたが、児童のなわとび検定への意欲が著しく低下することはなかった。今後も、体育の授業に位置付け、一人一人が自分の目標に向けてチャレンジする機会としてさらに継続していく。 ・放課後学習に地域の方の支援が得られれば、参加人数や参加学年の幅が広がる。呼びかけを運営協議会にさらに依頼をしていく。
必 須 テ ー マ	①いじめ防止対策に関する取組	いじめ問題対策委員会の定期開催 いじめアンケートの実施と 丁寧なヒアリング 生徒指導案に対する報連相の徹底	3	学級内のいじめの芽になりそうな事案やいじめ事案を中心に情報を共有し、予防や解決方法などについてSCやSSWも交えて毎月会議を開いている。 校内のいじめ事案については、できるだけ早急に職員間で情報共有を図るよう、確実な記録と報連相を徹底した。 学期ごとにいじめアンケートを実施し、丁寧に聞き取りをしたり、実施することでいじめの抑止力を図っている。	・いじめも不登校も原因は私達が「そんなこと？」と思うようなことかもしれない。大人のちょっとした声掛けて変えられることもあるのでは。 ・いじめの把握は難しいが、子供たちの様子を見抜ける力を先生方につけてもらいたい。 ・皆に優しい考え方をもちという「心のユニバーサルデザイン」の授業がいじめ防止につながることを期待する。	・校内でのいじめの認知については、今後も積極的にしていく。若手の教員が増える中、いじめの芽を見逃さないためには、OJTや研修を通して、子供の変化を見取る力を確実に養っていかねばならない。 ・生徒指導についての毎月の情報共有は、今後も丁寧にしていきたい。校内での情報伝達が滞らないよう、互いに声を掛け合い、初期対応を確実に進めるよう努力していきたい。
	②不登校支援の取組	不登校対策委員会の定期開催 サポートルームの有効な運用	4	不登校児童について、毎月会議を開き、現状(原因や課題)を把握し、状況や段階に応じた手立てを、保護者や関係各所と取りながら組織的に進めている。 今年度より運用を開始した「サポートルーム」は、環境整備や面談までの流れを担当が中心になって進め、4月から運用を開始した。登校に不安を抱えた児童たちにとって安心できる居場所として機能した。	・学校として子供の居場所を設け、支援員を配置するなど色々取り組んでいる。あとは家庭との連携をしっかりと進めて欲しい。すぐに効果は現れないが続けて欲しい。 ・サポートルームができて、早々に軌道に乗っており、驚いた。子供の居場所ができたのは良いことだと思う。	・来年度は、サポートルームの運営については、不登校担当者を明確に位置付けることで、さらなる充実を目指していく。担当者は、支援員と担任、養護教諭等がうまく連携を図ることができるよう、コーディネートに力を注ぐようにする。
	③教職員の業務改善	議題の精選、部会の活性化等、 会議の効率化 各種書類のペーパーレス化	3	留守番電話を18:00に設定(火曜日のみ17:00)し、職員が早めに帰宅するよう促している。学校だより等で保護者にエコデーや留守電を周知し、教職員を取り巻く業務改善の理解を図っている。昨年度より教職員の通勤時間は早くなっている。 会議・研修等はペーパーレスで行い、紙の削減をさらに進めた。	・ペーパーレス化は時代の流れでもあり、進めるべきだ。 年間使用量を数値化して効果を明確にするのもよい。 ・通勤時刻は、以前に比べると早くなっていると思う。	・ペーパーレス化が進むにつれて、すぐる発信の頻度が高くなり、画面越しに確認していただく情報量が増えた。保護者の皆様には確実に情報をお伝えすることができるよう、情報量や内容をできるだけ精査してから発信するように心がけている。
	④保護者・地域への 情報提供・発信 (すぐるの活用、ホームページ等)	「すぐる」の有効活用 ホームページでの 積極的な情報発信	4	学級閉鎖関連の連絡や、学校だより、学年だよりなどのたよりの配信、保護者向けアンケートの実施など、活用の幅が広がった。PTAの連絡もチャンネルを開設し、すぐるで行うことができた。 ホームページには、各学年の学習の様子や児童の学校生活の様子について、ほぼ毎日情報発信できるように努め、ホームページのアクセス数を伸ばした。	・地域への発信が少ないように思います。今、小学校はどんな様子なのか気にされているお年寄りもおられる。 ・すぐるやホームページでの情報発信は、他校に比べてもよくできている。登校時刻の変更などの緊急連絡の発信時刻は改善の余地がある。	・学校の現状について、地域の方が気にかけていただいていることはありがたいと感じている。世の中は加速的にデジタル化の方向で進んでいるが、アナログの方法で地域発信することも大切と再確認した。自治会のおたよりや回覧板、掲示板等を活用して情報発信は積極的に行っていきたい。

【評点】4:十分達成できた 3:おおむね達成できた 2:どちらかと言えば課題がある 1:課題がある